

## 古墳の形を探る

この他にも整備に必要な情報収集のため、後円部と前方部で古墳の裾を確認しました。これまでの調査結果と合わせることで、土に埋もれている築造当初の古墳の形を知ることができます。



11 前方部で確認された墳裾（破線が墳裾）



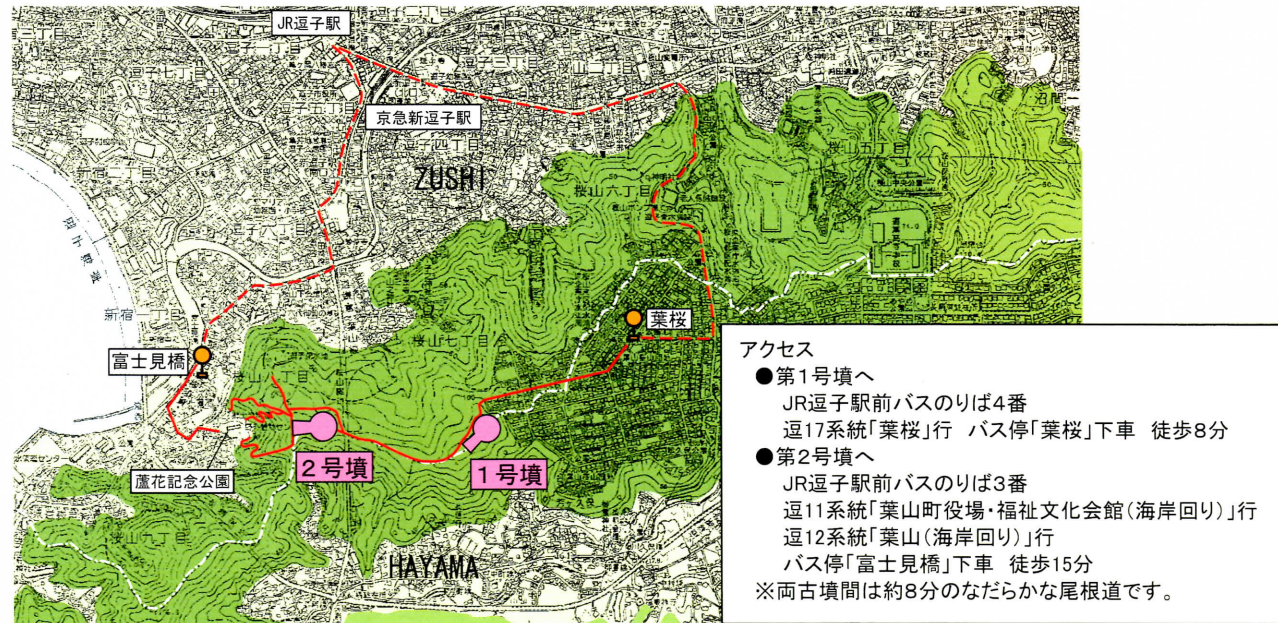
12 後円部北西部で確認された墳裾（破線が墳裾）

## まとめにかえて

4年に及ぶ発掘調査の結果、第1号墳は、現況の地形からは撻形の前部部にみえますが、実際には台形状を呈すること、後円部三段、前方部二段の段築を有すること、さらに後円部墳頂部には埴輪列を樹立することなど、他地域の大型古墳にもひけをとらない内容をもつことが明らかとなりました。

後円部墳頂部に築かれた埋葬施設にも粘土槨が採用されており、墓穴の中に木棺をそのまま埋めるいわゆる木棺直葬の例の多い県内の古墳にあっては、より手の込んだ埋葬施設であり、被葬者の生前の社会的地位が高かったことを想像させます。

発掘調査で知ることができたことは、今後の長柄桜山古墳群の保存整備のための基本的な情報として活かしていきます。

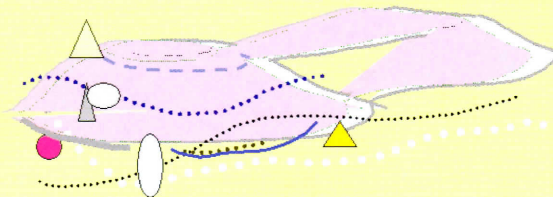


1 後円部墳頂部で確認された埋葬施設の陥没坑（写真中央の黒い楕円形プラン）

## はじめに

長柄桜山古墳群は、逗子市と葉山町にまたがる2基の大型前方後円墳からなります。平成14年に国の史跡に指定され、平成18年度から第1号墳の発掘調査をおこなってきました。これまでの調査により、主に墳丘の構造や古墳の上に並べられた埴輪(はにわ)列の存在などが明らかになりました。平成21年度の調査では、墳丘上を中心に、埋葬施設の位置など確認することができました。

発行日 平成23年3月10日  
編集・発行 逗子市教育委員会・葉山町教育委員会  
〒249-8686 神奈川県逗子市逗子5-2-16  
逗子市教育委員会 教育部社会教育課文化財保護係  
046-873-1111 (代表)  
〒240-0112 神奈川県三浦郡葉山町堀内2050-9  
葉山町教育委員会 教育部生涯学習課  
046-876-1111 (代表)  
印刷 有限会社 ユニオン印刷



神奈川県逗子市・葉山町

# 長柄桜山

平成21年度国指定史跡長柄桜山古墳群の発掘調査

## 埋葬施設の位置、構造

後円部の墳丘上を調査すると、想定していた中心よりもやや東よりで、黒色土が堆積した陥没坑が確認されました。遺骸を納めた木棺は時間の経過により腐って潰れたため、墳丘の表面も同時に陥没してくぼみとなり、そこに黒い土が堆積した状態で発見されたわけです。この陥没坑の下を一部掘り下げると、粘土槨(ねんどかく)と呼ばれる埋葬施設が確認されました。粘土槨とは、被葬者をおさめた木製の棺を粘土でおおう構造をなした埋葬施設です。この陥没坑は、幅約1.6m・長さ約6~7mと長大なものなので、木棺もそれと同程度のものであったと考えられます。後円部からはこの他に埋葬施設の存在をうかがわせる痕跡は確認されなかったため、第1号墳は一人の人物だけを葬るために築造された古墳であることが分かりました。また、今回の調査により埋葬施設は盗掘を受けていない非常に良好な状態で保存されていることが分かりました。棺内にどんな副葬品が納められているのか気になるのですが、一旦中を開けてしまえば現在の保存環境を変えてしまうことになるので、大切に残していくことにしています。



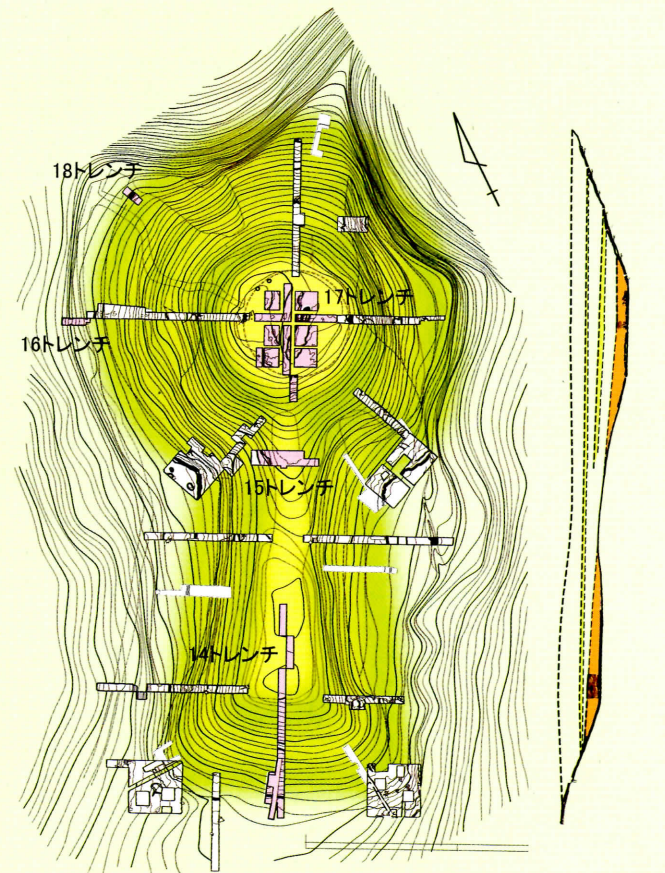
2 陥没坑内から出土した土器や埴輪



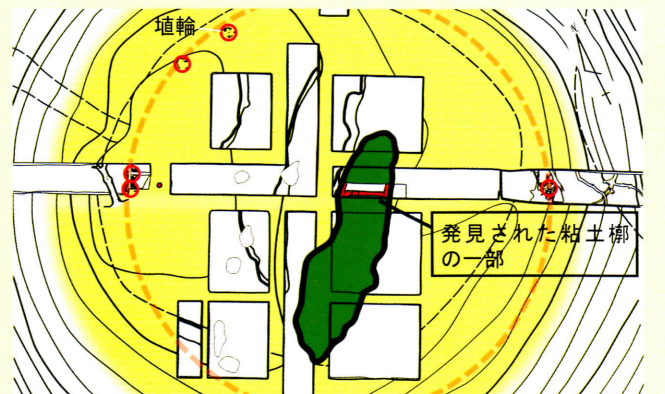
3 発見された粘土槨(南から)



4 発見された粘土槨(東から)



▲ 第1号墳調査区配置図(ピンク色の範囲が21年度調査区)



▲ 第1号墳後円部墳頂部平面図(緑色の範囲が陥没坑)

## 古墳の盛土

第1号墳は丘陵の岩盤を削りだし、その上に盛土を施していますが、今回の調査では、どのくらいの高さまで盛土を施しているのかを確認するために、一部墳丘の断ち割り調査を行っています。

調査の結果、後円部と前方部には地山を削りだした後、約1.5mの土を盛って築き上げていることが分かりました。盛土は、墳丘を削りだした際に出た土を使っていますが、下の方では黒い土と岩盤の混ざった土を交互に積み上げることで簡単に崩れないように工夫をしていることが分かりました。

なお後円部墳頂部では、階段状の地すべりにより西から東に向かって傾いていることが分かりました。



5 墳丘盛土の様子



6 後円部の地すべりの跡(階段状にずれています)

## 古墳で行われた祭祀の痕跡

第1号墳からはたくさんの埴輪が出土していますが、今回の調査でとくに注目されるのは、土器が出土したことです。土器は日々の生活だけではなく、祭祀の場面でも使われます。第1号墳からは、高坏(たかつき)と呼ばれる脚台の付いた碗がいくつも発見されているほか、焼き入れする前に底に意図的に孔を開けた壺も見つかっています。どのように使われたのかまでは分からないことが多いですが、いずれも第1号墳被葬者の埋葬に伴う祭祀に使用されたものと考えられます。



7 後円部墳頂部で発見された埴輪の破片



8 後円部墳頂部で発見された土器(高坏脚部)



9 後円部墳頂部で発見された土器(器台)



10 後円部墳頂部で発見された土器(底部穿孔壺)